

IV 郷土資料館事業

1 展示

(1) 常設展示

富士山の信仰、富士山麓の動物・自然などの常設展示を行った。

(2) 企画展示

ア 「史跡富士山 村山大日堂」展（巻末資料 ii）

期 間：平成 27 年 7 月 25 日(土)から平成 27 年 11 月 8 日(日)まで

内 容：村山大日堂の歴史と保存修理工事の内容について紹介。

イ 「昔日のふじのみや」写真展（巻末資料 iii）

期 間：平成 27 年 11 月 21 日(土)から平成 28 年 2 月 28 日(日)まで

内 容：富士山本宮浅間大社所蔵の古写真から、なつかしい富士宮の風景を紹介。

ウ 「庚申信仰」展（巻末資料 iv）

期 間：平成 28 年 3 月 19 日(土)から平成 28 年 7 月 10 日(日)まで

内 容：市内各所で行われてきた庚申信仰を紹介。

(3) その他の展示

ア 長屋門「歴史の館」

長屋門「歴史の館」では、「絹本著色富士曼荼羅図」の複製の展示や、富士宮市の歴史年表、世界遺産構成資産の紹介パネルなどを展示している。

場 所：富士宮市大宮町 6-22

開館時間：午前 9 時～午後 4 時 30 分

休 館 日：毎週火・水・木曜日、年末年始

入 館 料：無料

イ 「世界遺産の構成資産を知る！」展

富士山環境交流プラザにおいて、山宮浅間神社の発掘調査成果、村山大日堂の保存修理工事について紹介する展示会を開催した（企画部富士山世界遺産課と共催）。

場 所：富士山環境交流プラザ

期 間：平成 27 年 8 月 29 日(土)から平成 27 年 9 月 27 日(日)まで

(4) 展示会関連事業

ア 「富士に息づく文学碑」展（平成 26 年度企画展。平成 27 年 3 月 21 日(土)から平成 27 年 7 月 12 日(日)まで実施。）関連企画・歩く博物館探索会（巻末資料 v）

日 時：平成 27 年 5 月 23 日(土)

場 所：安居山・沼久保地区「富士宮の文学碑をめぐるコース」
 講 師：文化課社会教育指導員
 参加者：18 名

2 資料収集・保存管理

(1) 資料収集

表 5 郷土資料収集品一覧

受入月	内容	収集方法
平成 27 年 6 月	民俗資料 1 点	個人寄贈
7 月	民俗資料 1 点	現地採集
9 月	民俗資料 1 点	個人寄贈
10 月	歴史資料 2 点	個人寄贈
平成 28 年 1 月	民俗資料 1 点	現地採集



写真 69 台秤

(2) 保存管理

ア 収蔵品くん蒸事業

日 時：平成 27 年 11 月 6 日(金)から 11 月 8 日(日)まで

場 所：被覆くん蒸(埋蔵文化財センター収蔵庫内) (富士宮市長貫 747-1) 約 20 m³
 埋蔵文化財センター収蔵庫 約 600 m³
 埋蔵文化財センター別棟 約 550 m³
 柚野収蔵庫 (富士宮市下柚野 361-1) 約 300 m³

内 容：埋蔵文化財センター収蔵庫内で、被覆くん蒸法により、薬品名エキヒューム S による殺虫・殺カビくん蒸を実施した。あわせて、埋蔵文化財センター収蔵庫・同別棟・柚野収蔵庫では、薬品名ブンガノンによる殺虫処理を実施した。(施工業者：関東港業株式会社)

3 古文書等解読刊行事業

(1) 旧北山村役場文書刊行事業

旧北山村役場文書(富士宮市教育委員会蔵)は、旧北山村の地方文書や北山用水関係資料などが含まれ、当時の富士宮市北部地域の生活を知る上で貴重な資料群である。今年度は昨年度に引き続き、古文書の解読作業を行った。

V 歩く博物館事業

1 探索会

(1) 市主催探索会

第1回（巻末資料v）

※ 郷土資料館企画展「富士に息づく文学碑」展関連企画として実施（29Pを参照）。

第2回（巻末資料vi）

日 時：平成27年10月14日（水）

場 所：大鹿窪・下柚野地区「大鹿窪遺跡と周辺の文化財を訪ねるコース」

講 師：文化課学芸員

参加者：35名

第3回

日 時：平成28年2月6日（土）

場 所：大宮東地区「旧大宮町東地区をめぐるコース」

講 師：文化課学芸員

参加者：37名

VI その他の事業

1 問合せ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問合せに対応した。要請に応じ、講座等の説明・案内を行った。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問・質問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 講師派遣

(1) 富士山まちづくり出前講座

富士山まちづくり出前講座は、市民の自主学習の支援や市政の広報のために設けられたものである。平成27年度も文化課職員が講師となり、小学校や公民館に出向き、「ふるさとの歴史を学ぶ」と題して講座を開催した。

その他、市外からの視察等にも対応し、世界遺産構成資産の説明等を行った。

「山宮浅間神社遺跡発掘調査報告」展

現在、富士宮市では、世界遺産に登録された各文化財の整備事業を進めています。山宮浅間神社では、整備事業の基礎資料とするため、平成24年度から発掘調査、文献調査等を実施しました。本展ではその成果を紹介します。

1 史跡富士山と山宮浅間神社
史跡富士山

富士山は日本を代表する名山であり、昭和27年(1952)に国の特別名勝に指定された。一方で富士山は、古より信仰の対象として崇められ、遠くから拝む遥拝や山中での修行など、その信仰は様々な形で展開してきた。現在でも富士山の周辺には、その信仰をとどめる多くの有形・無形の文化財がある。

平成23年(2011)2月、これらのうち特に学術上価値のあるものが国指定の史跡に指定された。更に平成25年6月には「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録された。

山宮浅間神社

山宮浅間神社は、富士山本宮浅間大社(以下浅間大社)の社伝によると、浅間大社がもとあった場所とされる。

境内には、本殿にあたる建物がなく、本殿のあるべき場所には石列で区画された遥拝所があり、周囲は溶岩礫を用いた石塁で囲まれている。これは富士山を遥拝するための施設と推定され、古代からの富士山信仰の形をとどめるものと考えられている。また、境内には龍屋と呼ばれる施設があり、かつては神事の際に浅間大社の神官らが参籠した。

浅間大社との関係を示すものとして、神の宿った鈴が浅間大社と山宮浅間神社との間を往復する「山宮御神幸」の神事が明治初年まで行われていた。



遥拝所(参道から望む)



遥拝所から富士山を望む

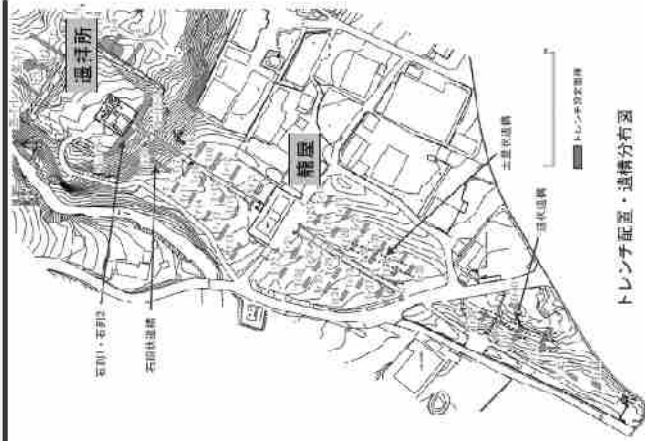
2 発掘調査

概要

発掘調査は、遺跡の内容確認を目的として、平成24・25年度に実施した。

平成24年度は境内全域にトレンチ(発掘調査のための試掘坑)45ヶ所を設定し、調査を実施した。その結果、土塁状遺構など、境内に複数の遺構が点在することが判明した。

平成25年度には、遥拝所を囲む石塁の周辺にトレンチ4ヶ所、遥拝所南側にトレンチ2ヶ所を設定し、調査を実施した。遥拝所南西側では、玉垣内の石列と同時期と考えられる石列を新たに確認した。



トレンチ配置・遺構分布図

検出遺構

遥拝所南側の斜面に設定したトレンチでは、溶岩を斜面に沿って積み上げた石段状の遺構を検出した。

また、龍屋の南東側に設定したトレンチでは、土を盛り上げた土塁状の遺構を検出した。この土塁状遺構は基底高の幅約3m、上部の幅約1.5m、高さ約0.7mに及ぶことが判明した。

さらに、境内地南端部の参道東側に設定したトレンチでは、東側の幅約1~2mにわたって地面が平らに造成され、一部が同められている様子を確認できた。この平坦面は道として使用されていた可能性が考えられる。



土塁状遺構



石段状遺構

石列

遷葬所南西側のトレンディ(25-T15-1)からは、一部の面を加工した10～50cm程度の溶岩を並べた石列(石列1・石列2)を新たに確認した。石列1は調査前より地表に露出していたが、新たに平垣の南西隅で直角に曲がり、平垣の下部へ続く箇分が検出され、玉垣の構築以前に配置されたことが判明した。石列2は石列1に接続し、鈎の手状に配置されていた。これらの石列は玉垣内の石列と同質の溶岩を用いており、ほぼ同時期に配置されたと考えられる。



石列1・石列2(25-T15-1・北面より)

出土遺物

発掘調査では、境内地全体から土師器、陶磁器、石製品、金属製品などが出土し、出土数の合計は破片資料で10,000点以上になる。

出土遺物のほとんどは土師器であり、坏・皿・柱状高台坏など豊富な器種が見られる。陶磁器類には瀬戸(愛知県)・美濃(岐阜県)産や常滑(愛知県)産、瀬美(愛知県)産などの国産陶磁器の他に中国産の貿易陶磁器がある。

出土遺物の年代は12世紀中頃～15世紀を中心とし、遷葬所内(25-T15-1・5-2)や斜面(Tra5)で特に多く出土している。この頃に遷葬所で行われていた祭祀で使用された後、廃棄されたものと考えられる。

遺物出土状況



3 文献調査

概要

浅間大社に伝わる記録には、江戸時代に浅間大社や、山宮などの摂末社で行われた祭祀が記されている。これらの資料をもとに江戸時代に山宮で行われていた祭祀について整理した。

また、山宮浅間神社には、明治時代以降の神社関係資料が保存されている。このうち、明治時代から昭和40年代までを中心とする資料53点の調査・整理を行った。資料には、境内造営に関する書類や、神社の会計に関する書類(会計簿、領収書)が含まれており、調査の結果、現在の境内にある玉垣、繩屋などの造営時期が判明した。

山宮の祭祀

浅間大社に伝わる「富士本宮年中祭祀之次第」、「古来所伝祭祀」には、江戸時代に本宮(浅間大社)や山宮などの摂末社で行われていた祭祀が記されている。

山宮で行われていた祭祀は、正月行事、春秋の列申祭・9月の大祭に伴う祭祀など本宮の祭祀に伴うものを中心だった。特に御初祭として、正月8～10日に大宮司らが山宮に参



現在の初申祭の様子

観した後天に巡礼に出かけるものや、初申祭前日に御神休の餅が山宮まで奉幸し奉幸し未明に還御する「山宮御神幸」があった。

明治時代になると、本宮の祭祀が整理され、明治9年(1875)には山宮は奥社から外れた。これにより、山宮御神幸などの多くの祭祀が廃止され、山宮の祭祀は縮小された。

昭和初期の境内整備事業

昭和初期、山宮浅間神社では境内整備工事が計画され、現在の境内の景観が作られた。古くから山宮浅間神社には、石列の並ぶ「遷葬所」と「繩屋」があるのみで、本殿・拝殿や鳥居・玉垣等はなかった。

昭和5年(1930)、山宮浅間神社は工垣と鳥居の新築工事を計画した。秋頃には遷葬所に玉垣が設置され、翌年には境内南入口にシンクリート製鳥居が完成した。その後、昭和7年に老朽化していた巨建物(台風の倒壊のため、翌8年に現在の「龍堂」が建築された。以降、地蔵の人々を中心に境内の維持管理が続けられてきた。



玉垣設置前の遷葬所の様子
(昭和4年刊行『富士の研究』より)

4 主な調査成果と今後の予定

I 発掘調査

- ① 遷葬所南側で新たな石列を検出し、石列の全体像がほぼ判明した。鍵の手状に配置された石列は、遷葬所の入口部分と推測される。
- ② 石室で埋められた遷葬所内でも、12世紀中頃～15世紀の土師器が多量に出土した。過去の調査でも同様の成果があり、12世紀中頃から遷葬所内は祭祀を行う特別な空間として使用されていたと考えられる。

II 文献調査

- ① 浅間大社に伝わる資料から、江戸時代には、浅間大社の祭祀と並び、山宮においても様々な祭祀が行われていたことが確認した。
- ② 明治時代以降の資料の検討により、玉垣・鳥居の新設、繩屋の建替えなど、現在につながる境内景観の形成が昭和初期に行われたことが判明した。

今年度の予定

今年度は遷葬所西側の景観整備・階段整備工事に伴う事前の発掘調査を実施します。今後も、調査・整備事業へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

山宮浅間神社遺跡発掘調査報告展

期 間 : 平成27年7月1日～平成27年9月25日
場 所 : 富士宮市埋蔵文化財センター(富士宮市長貫747-1)
問合せ先 : 富士宮市教育委員会 文化課(埋蔵文化財センター)
TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2333

「史跡富士山 村山大日堂保存修理工事」竣工記念

「史跡富士山 村山大日堂」展



村山浅間神社（手前）と大日堂（奥）

村山の大日堂[※]は、村山浅間神社とともに富士山信仰の拠点「興法寺」の堂社のひとつでした。

現在、富士宮市では、世界遺産に登録された文化財の整備事業を進めており、大日堂では、平成 26 年度に保存修理工事を実施しました。本展では、大日堂の歴史や修理工事の内容を紹介します。

※世界遺産の構成資産名称は「村山浅間神社」。

1 興法寺の歴史

興法寺の成立と展開

富士山は古くから信仰の対象とされてきた。12 世紀には本代という僧が登山し、山頂に「大日寺」を建立したという。やがて、宋代の流れをくむ宗教者が村山に集まり活動するようになり、興法寺が形づくられたと考えられる。興法寺の詳しい成立時期は不明だが、村山には正嘉 3 年（1259）の銘がある大日如来坐像が伝わっている。

戦国時代になると、宗教者だけでなく、一般の人々も富士登山を行うようになり、村山には、道者（富士登山者）の世話をする坊が多数成立した。村山は、駿河国を支配する戦国大名今川氏の庇護を受け、多くの道者にぎわった。



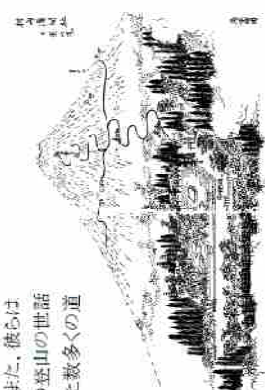
大日如来坐像（正嘉 3 年銘）
村山浅間神社・富士山興法寺大日堂所蔵

村山三坊と近世・近代の村山

江戸時代になると、数多くあった宿坊は整理され、「村山三坊」と呼ばれる池西坊・辻ノ坊・大鏡坊が興法寺と集落を管理するようになった。また、村山三坊は、富士山中の登山道や山頂の大日堂、山頂の一部を管理・支配した。

村山三坊に所属する修験者は「法印」と呼ばれ、富士山の中に入って修行を行い、富士山東麓地域等を巡って加勢祈禱や配札等の宗教活動を行った。また、彼らは主に富士山以西の地域に富士山信仰を広め、道者の登山の世話などを行った。登山時期になると、村山は西国から来た数多くの道者でにぎわった。

明治時代になると、神仏分離令・廃仏毀釈運動により、村山三坊は還俗し、興法寺は廃されて浅間神社と大日堂に分離された。また、村山を経ずに山頂に至る新たな登山道が開削されたことにより、村山は次第に登山口としての機能を失っていった。



「駿河記」に描かれた村山

2 資料に見る大日堂

大日堂の概要

大日堂は、大日如来を祀る興法寺の中心施設のひとつである。大日如来は、神仏習合の考え方により、富士山の神（浅間大菩薩）の本尊（本来の姿）とされた。

大日堂は興法寺の成立当初から存在していたと推定される。記録によると、江戸時代、大日堂を含めた興法寺の諸建物は地震・台風等の災害により度々破損・倒壊し、修理・造営が行われていた。中でも、元禄 10 年（1697）の造営は江戸幕府第 5 代将軍・徳川綱吉によるもので、大規模なものであった。

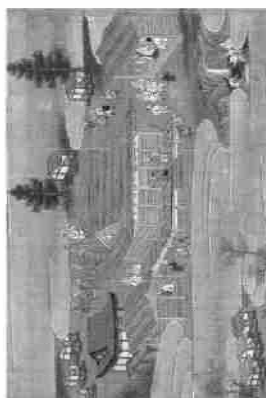
明治初年には、廃仏毀釈運動の影響により、富士山中の仏像類は大日堂に集められ、施設されたという。

大日堂の姿

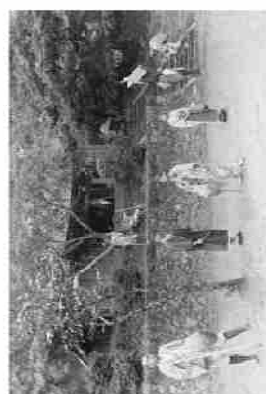
大日堂が描かれた資料は少ないが、甲世・近世の絵画・絵図があり、かつての大日堂の様子や境内の建物配置などを確認できる。

現在の大日堂の建物については、明治・大正ころの古写真が数点残されている。これらの写真からは、大日堂が茅葺屋根だったこと、建物正面に向拝があったことなどが分かる。

大日堂の保存修理工事にあたり、これらの内容を検討し、建物復元の参考資料とした。



「網本 善色 富士曼荼羅図」
（部分、富士山本宮浅間大社所蔵、室町時代）



明治 35 年（1902）撮影の古写真



大正年間の古写真



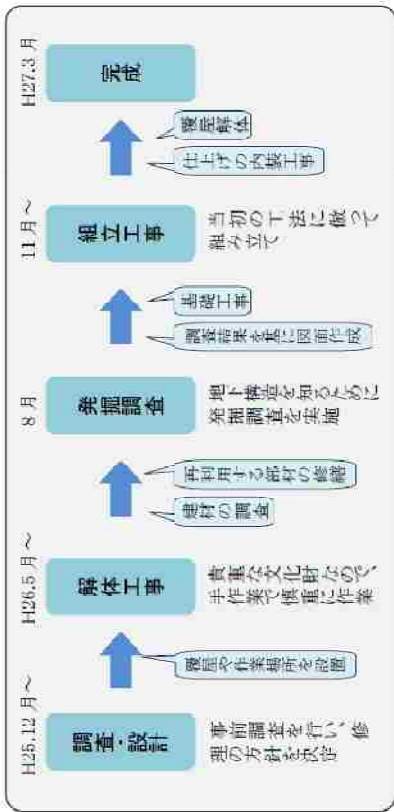
古写真（撮影年代不明）

3 大日堂の保存修理工事

概要

現存する大日堂の建物は江戸時代末期の建築と考えられるが、幾度かの改修を経て創建当初とは異なる姿になっていた。そこで、大日堂をできるだけ当初の姿に戻し、その歴史的価値をさらに高めるために、保存修理工事を行うこととなった。

事業主体	富士宮市
発注先	設計・監理\NPO法人静岡県伝統建築技術協会 施工\株式会社川原組
事業費	102,039,480円(内、国補助金 46,777,500円・県補助金 21,525,000円)
工事期間	平成25年12月～平成27年3月



解体

解体は基本的に手作業で行い、作業と並行して当時の工法や後世に改造した部分の痕跡を調査した。



解体前の準備作業
(覆屋の設置)



解体作業中
(覆屋の骨組の解体)

組立

解体中の調査や発掘調査の結果を基に復元方針を決定し、図面を修正した。解体した部材は、一部を取り替えたが傷んだ部分を修繕したりして出来るだけ再利用した。部材の準備を終えた後、当初の工法に倣い、順次組み立てを行った。



組立前の準備作業
(再利用する部材の修繕)



屋根の組立

完成した大日堂

保存修理工事では、出来るだけ建造当初の形に復元することを目指した。古写真や解体に伴う調査に基づき、屋根の形状、建物正面の向拝、建物外壁の開口部など、変更・復元を行った。上記の工程を経て、大日堂の保存修理工事は平成27年3月に完了した。この保存修理工事により、大日堂の文化的価値が高められるとともに、その価値が長く後世に伝わっていくことが期待できる。



保存修理工事実施前



保存修理工事完成後

「史跡富士山 村山大日堂保存修理工事」竣工記念
「史跡富士山 村山大日堂」展

期 間：平成27年7月25日～平成27年11月8日
場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2）
問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）
TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

「昔日のふじのみや」写真展

本展では、富士山本宮浅間大社秘蔵のガラス乾板古写真のなかから、懐かしい富士宮の風景を紹介します。このガラス乾板古写真は、大正時代から戦後間もない時期にかけて撮影されたものです。本宮境内や富士山頂とともに市内の風景も撮影されており、かつての郷土の様子やそこに生きる人々の息づかいが伝わってきます。これらの古写真を通して、かつてのふるさとの有様を感じ取っていただき、地域を再認識する機会となれば幸いです。



現在の浅間大社社殿

展示写真一覧



1. 本宮全景



2. 宮緒前本殿全景



3. 修理工事前の本殿



4. 御本殿側面



5. 一ノ鳥居



6. 社務所



7. 旧手水舎及楼門



8. 楼門正面



9. 旧西鳥居



10. 裏ヨリ見タル西鳥居



11. 馬場桜



12. 東鳥居



13. 旧御手洗川全景



14. 行幸橋渡初



15. 梅月旅館全景



16. 馬場全景



17. 御昇格 40 年祭撒餅式



18. 朝詣ノ景



19. 西ヨリ望ム花ノ馬場



20. 朝詣会賞状授与式



21. 初メテ田植舞ヲ拝殿前



22. 御田植祭



23. 御遷座祭(河原大祓式の行列)



24. 御遷座祭(河原大祓式)



25. 流鏝馬祭



26. 流鏝馬祭行列



27. 御遷座祭(河原大祓式の行列)



28. 40周年記念奉祝灯



29. 流鏝馬祭連行



30. 駅前大鳥居竣工奉告祭撒餅式



31. 星山明星山



32. 御遷座祭(河原大祓式の行列)



33. 風景富士



34. 村山風景富士



35. 頂上四枚組エハガキ奥宮



36. 久須志神社



37. 金明水



38. 銀明水



39. 久須志全景



40. 安之河原



41. 白山ヶ岳全景



42. 駒ヶ岳



43. 剣ヶ峰



44. 剣ヶ峰・このしろ池



45. 出水ノ景



46. 雪ノ景



47. 奥宮全景(姫神松)



48. 茅葺の家



49. 村山大日堂



50. 山宮浅間神社遥拝所

「昔日のふじのみや」写真展

期 間：平成27年11月21日～平成28年2月28日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

「庚申信仰」展

古い道筋などに青面金剛や見ざる・言わざる・聞かざるの三猿を刻んだ石造物を見かけます。これらは庚申信仰の石造物であり、特に庚申年は重要視されました。市内に所在する庚申信仰の石造物を中心に、かつて市内各所で盛んに行われていた庚申信仰について紹介します。

庚申信仰

60日に一度巡ってくる庚申の日の夜、人の体の中に棲む三尸の虫が、宿主が眠っている間に抜け出して天に昇り、天帝に宿主の悪行を報告する。天帝はその報告をもとに人の寿命を決めるため、早死にしようという。そこで、徹夜して精進潔斎すれば虫が抜け出さず、長生きできるという。

この中国の道教の信仰が伝わり、やがて様々な信仰や習俗と合わさっていった。江戸時代には大変流行し、各地で庚申講が組まれ、庚申塔や庚申堂が建てられた。庶民にとっては、精進潔斎して身を慎むというより、仲間と集まって会食したり遊んだりして楽しむ社交の場でもあった。

庚申信仰は市内でも盛んだったらしく、各所に庚申塔が残されている。また、山本や橋場の庚申堂では今も祭りが行われている。



立ち並ぶ庚申塔（上井出・上宿）

角柱型の文字碑〈No.7〉(左端)、青面金剛〈No.8〉(左から 2 番目)、笠の付いた宝塔形式の文字碑〈No.6〉(右端)が並んでいる。

干支

暦の数え方で、十干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)を組み合わせた60通りある。年と日を数えるのに用いられた。「十干十二支」や「六十干支」とも言われる。「庚申」(こうしん／かのえさる)もこのうちの一つである。同じ干支は60回に一度巡ってくるので、庚申日は60日に一度、庚申年は60年に一度巡ってくる。また、60歳の「還暦」は、60通りの干支の年を全て経たことを意味する。なお、今年平成28年は丙申年(33番目)にあたる。

干支表

1 甲子	2 乙丑	3 丙寅	4 丁卯	5 戊辰	6 己巳	7 庚午	8 辛未	9 壬申	10 癸酉
11 甲戌	12 乙亥	13 丙子	14 丁丑	15 戊寅	16 己卯	17 庚辰	18 辛巳	19 壬午	20 癸未
21 甲申	22 乙酉	23 丙戌	24 丁亥	25 戊子	26 己丑	27 庚寅	28 辛卯	29 壬辰	30 癸巳
31 甲午	32 乙未	33 丙申	34 丁酉	35 戊戌	36 己亥	37 庚子	38 辛丑	39 壬寅	40 癸卯
41 甲辰	42 乙巳	43 丙午	44 丁未	45 戊申	46 己酉	47 庚戌	48 辛亥	49 壬子	50 癸丑
51 甲寅	52 乙卯	53 丙辰	54 丁巳	55 戊午	56 己未	57 庚申	58 辛酉	59 壬戌	60 癸亥

庚申塔

庚申信仰は仏教や神道、民間信仰などと複雑に絡み合った信仰であり、その石造物(庚申塔)も多様である。市内では、「庚申」・「帝釈天」などの文字や種字(梵字)・経典を刻む文字碑、青面金剛や三猿などの像を刻むものなどが見られる。猿像は申年にちなんだものと考えられ、なかでも「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿像が多く見られる。また、「南無妙法蓮華経」の題目を刻む、題目塔を習合した庚申塔も多い。

庚申塔は、集落や庚申講中で造立された。申年、特に60年に一度の庚申年を記念して建てられることもあり、内房の大嵐に、享保元年(1716)丙申年と寛政12年(1800)から昭和55年(1980)までの庚申年毎に造立された5基の庚申塔がある。

市内で見られる様々な庚申塔



梵字

35 光町 (二の宮共同墓地)



青面金剛

84 内房竹ノ下



題目庚申塔

41 星山



文字碑

25 外神上谷

庚申塔に刻まれるもの



三猿

見ざる・言わざる・聞かざるの3匹の猿。並び順はまちまち。猿は青面金剛の使いともいわれる。



二鶏

雄鶏・雌鶏の2羽の鶏。庚申の夜は徹夜をするので、夜明けを告げる鶏が描かれたと考えられる。



日・月



庚申塔の上部に太陽と月が描かれる。月は三日月になっている。雲に乗っているものも多い。

しょうめんこんごう

青面金剛

もとは伝尸病(結核)を除く鬼神とされた。伝尸病は恐ろしい病であり、これを治すには三尸の虫を退治する必要があるとされた。やがて伝尸病を防ぐ青面金剛が三尸の虫を退治すると考えられるようになり、庚申の本尊として信仰されるようになったと考えられている。青面金剛像の多くは髪を逆立て怒りの形相をしている。邪鬼を踏みつけているものもある。腕は2手・4手・6手で表され、各手に剣や弓矢といった武器や罽索(縄)など、さまざまなものを持つ。市内では6手の腕を持ち、中央で合掌している形が多い。



青面金剛の持ち物

上: 日月

日月のほか、法輪や剣も多い。

中央: 合掌

合掌が多い。剣やショケラ(人間)を持つものもある。

下: 弓矢

弓矢が多い。罽索や蛇を持つものもある。

庚申堂

市内の山本、長貫橋場、杉田新梨などには庚申塔などを祀る庚申堂がある。庚申堂は集落で祀られ、今も祭礼が行われている。

山本の庚申堂（猿田彦神社）

堂内に「青面金剛」の文字を刻む庚申塔が祀られている。大きな宝塔で、下部は床下に潜り込んで直接地面に立っている。昔は庚申の祭りが年6回行われ、人参・大根・ねぎなどの野菜を供え、祈りを捧げたという。その後皆で飲食をし、一夜を過ごした。また、祭典後に夫婦で供物を食べると丈夫な子供が産まれると言われたという。現在は2月11日を例祭日とし、その前後に祭りを行っている。



山本の庚申堂に祀られた庚申塔

橋場の庚申堂

堂内の内陣に、庚申塔・神像・猿の像・青面金剛の掛軸が祀られている。この庚申塔は失せ物探しに御利益があるとされ、失せ物をした際に左撚りの縄で庚申塔を縛ると見つかるという。また、ここは広く信仰されていたようで、幕末の大宮町の造酒屋主人が記した『袖日記』には、嘉永6年(1853)4月17日条に「橋場庚申様へ代参 当月廿四日参り候」とあり、24日に「端場村庚申様へ参詣」している。橋場の庚申堂の祭りは申の日に行われていたが、現在は3月下旬から4月上旬に行われている。



橋場の庚申堂（内陣の様子）

新梨の庚申堂

堂内に宝塔型の庚申塔と正徳5年(1715)の銘がある観音像が祀られている。庚申塔の正面には「卅」と三猿が刻まれており、仏教の影響を受けた庚申塔と考えられる。側面には「杉田村新梨」の地名と、願主6名の名前が刻まれている。杉田には、新梨のほかに滝ノ上にも庚申堂があったという。また、丸塚・中村・滝ノ上・久保・千貫松にも庚申塔が残されており、集落単位で庚申講があったと考えられる。



新梨の庚申堂

富士山信仰と庚申

庚申年は「富士山御縁年」とされ、特に富士登山の御利益が高い年であるという。これは、庚申年に富士山が湧出したという伝説に由来するもので、江戸時代には広く流布していた。庚申年は例年に増して多くの参詣者(登山者)が集まった。申年も「小縁年」として信仰された。富士市岩淵の岩淵鳥居講は、江戸時代から申年ごとに富士山頂に鳥居奉納を行っており、今年平成28年申年にも鳥居の奉納を計画し

ている。

庚申御縁年の考えから、猿は富士山に縁があるものとされた。村山で発行された富士山信仰のお札には、富士山の神仏である女神や大日如来を礼拝する2匹の猿が描かれている。また、江戸の富士講の信仰では、開祖・長谷川角行は、溶岩洞穴「人穴」での修行中、仙元大日神の使いである猿に導かれたという。



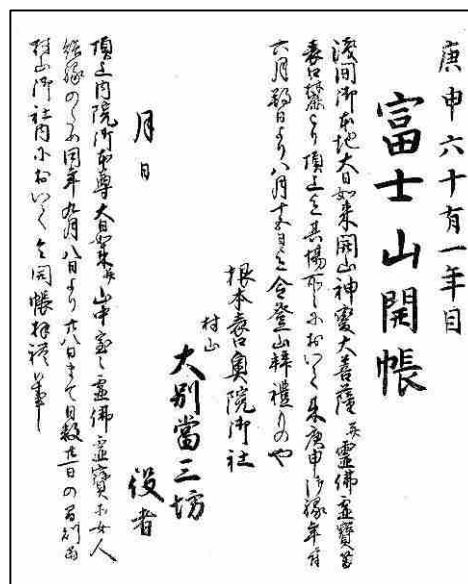
富士山頂に奉納された鳥居

富士山信仰のお札・版木



女神のお札

村山で発行された富士山のお札。富士山の女神を拝む2匹の猿が描かれる。



「富士山開帳」

庚申年の富士山御縁年を記念し、特別に仏像類の開帳が行われるとの広告。御縁年には参詣者（登山者）が増加した。

富士山の誕生（出現）

孝安天皇九十二年の庚申の年の正月、駿河国が四方に割けて大海となり、その夜のうちに海から大山が現れて海を埋めてしまった。

村山の興法寺に伝わる「富士山略縁起」には、富士山の誕生(出現)についてこのように記されている。庚申年に突如富士山が出現したという話は、江戸時代には広く流布し、庚申年は富士山御縁年とされた。

「庚申信仰」展

期 間：平成28年3月19日～平成28年7月10日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

富士宮市内庚申塔一覧

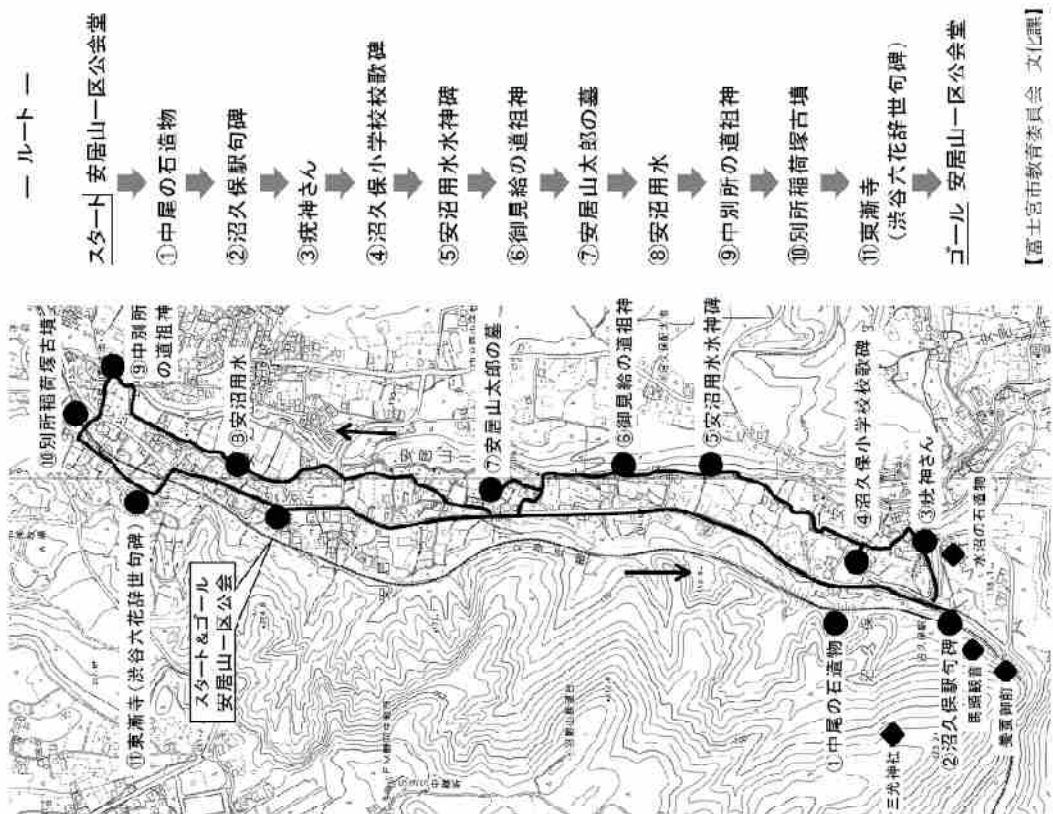
№	所在地	建立年月日	西暦	干支	建立者	備考
1	根原	寛政四年五月吉日	1792	壬子 亥	なし	
2	根	寛政十二年正月五日	1800	庚申 亥	なし	
3	上井山上宿	元禄十一年四月二十五日	1697	丁丑 上井山町在河合兵衛・七兵衛		
4	上井出上宿	寛政十一年一月五日	1798	戊辰 15名の銘あり		背面金剛
5	上井出上宿	寛政二年九月六日	1819	甲申 39名	遠藤重盛ら10名	
6	上井出新田	寛政四年正月吉日	1804	甲申 39名	吉田幸ら5名	
7	上井出新田	寛政四年正月吉日	1804	甲申 39名	なし	
8	上井出新田	元禄六年八月日	1693	癸酉 新田村 斎藤清右		背面金剛
9	上井出新田	宝永五年四月十八日	1708	戊子 山口口左衛門		背面金剛
10	上井出新田	享保七年	1722	壬寅 新田村 山口		
11	内野足形	正徳三年仲春日	1713	癸巳 足形 足形佐野氏9人		
12	内野(生蔵院)	宝永二年十月吉日	1705	乙酉 内野村一結兼 普賢院池10名		
13	内野佐所	延宝八年九月四日	1680	庚申 佐所村庚申村木願一福衆7名		
14	北山貴岡	延宝八年二月二十五日	1680	庚申 題目講費開村11人		
15	山宮久保	天明十四年三月日	1843	癸卯 久保村講中		
16	山宮宮内(山宮浅間神社)	□□十二月吉日	(不明)	山宮村 赤池八兵衛ら8名		背面金剛
17	精進川久保地	寛政九年十二月吉日	1797	丁巳 数名の銘あり		背面金剛
18	精進川大倉(千光寺)	延宝八年九月吉日	1680	庚申 なし		背面金剛
19	精進川大倉(千光寺)	22	—	夕		背面金剛
20	精進川中宿	延宝八年八月	1680	庚申 願主		
21	下桑田原	寛文五年六月二十四日	1665	乙巳 数名の銘あり		
22	下桑田原	宝永六年四月十九日	1703	己丑 田原村中		
23	馬見原	寛政八年四月十三日	1688	戊申 馬見原村 上考木村 施主吉左衛門		
24	馬見原	延宝八年九月四日	1680	庚申 石川茂三門ら18名		
25	外神上宿	文政十三年	1830	庚寅 (不明) なし		
26	外神和田	□□廿年十一月	(不明)	講中		
27	宮原(個人堂)	天明二年十一月五日	1821	辛卯 講中		
28	青木一本松	寛政十三年九月十三日	1728	戊申 上考木村 勘右衛門ら3名		背面金剛
29	青木中川原	寛政八年七月六日	1688	戊申 一結衆か?		
30	青木中川原(個人堂)	寛政八年二月十日	1688	戊申 一結衆か?		
31	青木重谷戸	正徳二年八月日	1712	壬辰 なし		背面金剛
32	大中山(浅間寺山門脇)	元禄十年三月如講日	1697	丁丑 数名の銘あり		
33	大中山石畑	元禄十一年十月庚申日	1698	戊寅 富士郡青見村		背面金剛
34	大中山石畑	享保十一年五月吉日	1725	乙巳 松左衛門ら3名		
35	光町(二之宮大同墓地)	寛永十一年十月吉日	1641	甲申 15名の銘あり		
36	矢立町(赤心寺)	文化四年四月吉日	1812	壬申 飯沼 七五士門		背面金剛
37	矢立町	文化四年	1812	丙戌 南呂村講中		
38	野中蔵戸(八幡宮)	享保二年二月吉日	1717	丁酉 なし		
39	野中蔵戸(八幡宮)	享保二年二月十日	(不明)	(不明) なし		
40	野中	延宝五年九月吉日	1677	丁巳 曾左衛門ら7名		
41	星山	延宝十年五月日(明治19年創建)	1679	己未 当时中		
42	廣戸	文化四年九月	1807	丁卯 講中		
43	山本(藤田寺神社)	慶安五年十一月廿二日	1652	主卯 半右衛門ら7名		
44	山本蔵吉(蔵)	なし	—	— なし		
45	村出ア月山	建立者龍□□	(不明)	(不明) 村出ア月山 数名の銘あり		

№	所在地	建立年月日	西暦	干支	建立者	備考
46	杉山廣沢(山の神社)	文化五年一月吉日	1808	戊辰 当村中		背面金剛
47	杉山廣沢(山の神社)	寛文三年現則吉辰日	1663	癸卯 長五郎ら3名		
48	杉山廣沢(山の神社)	□月十七(破損により不明)	(不明)	(不明)		背面金剛
49	杉山廣沢(山の神社)	寛文十二年八月廿三日	1673	癸丑 藤之助行衛		
50	杉山神成西	(破損により不明)	(不明)	(不明)		
51	大岩宝田	文政二年二月	1819	己卯 講中		背面金剛
52	大岩時田	文化十一年四月十一日	1813	癸酉 なし		背面金剛
53	大岩王平	寛文十三年八月廿三日	1673	癸丑 大岩村 木廻双兵衛ら3名		背面金剛
54	大岩王平	文化七年六月五日	1810	庚辰 なし		背面金剛
55	大岩丸谷戸	なし	—	— なし		背面金剛
56	大岩出水	寛政四年十一月吉日	1792	壬子 大岩村出水村講中		
57	小泉南原	元禄三年九月如意辰日	1690	庚辰 (不明)		
58	小泉南原	宝永元年九月廿三日	1704	甲申 長谷川弥次郎ら5名		背面金剛
59	杉田新製(庚申堂)	享保元年九月吉日	1716	丙申 杉田新製 新製 王御平ら6名		
60	杉田丸壁	七月十六日	不明	不明 講一福		
61	杉田龍ノ上	なし	—	— なし		背面金剛
62	杉田中村	なし	—	— なし		背面金剛
63	杉田久保(久保山ノ神)	貞享四年霜月如意辰日	1687	丁卯 渡辺八郎ら14名		
64	杉田千鶴松	享保二年十一月吉日	1713	癸巳 6名の銘あり		
65	上稲子門野	徳政二年二月五日	1806	丙寅 (早稲子)佐野彌次郎		
66	下稲子	大塚六年霜月吉日	1826	ノ未 22		
67	上稲野中才	延宝九年九月十日	1681	辛酉 折願主		
68	上稲野中才	(破損により不明)	(不明)	(不明)		
69	大瀬生三郎	元禄七年六月二十四日	1694	甲戌 渡辺茂左衛門 三沢村 10人		
70	羽瀬平野	享保十年七月廿五日	1725	乙巳 願主		
71	羽瀬本村(個人意即)	宝永八年八月二日	1711	辛卯 当村庚申講中		
72	羽瀬本村(個人意即)	宝永八年	1711	辛卯 当村 17人		
73	長瀬橋(庚申堂)	なし	—	— なし		
74	長瀬橋(庚申堂)	昭和五十八年五月五日	1983	癸亥 本成寺 39 世日孝		
75	内房稲沼(越前神社)	寛文三年□□初七日	1663	癸卯 銘あり		
76	内房香合(龍興寺)	寛文三年二月中旬	1663	癸卯 望月九左衛門 望月女ら11名		
77	内房地沢(神神寺)	寛文八年三月四日	1668	戊申 風岡助兵衛ら8名		
78	内房大風(医工殿)	享保元年神冬吉日	1716	丙申 風岡二治兵衛ら5名		
79	内房大風(医工殿)	寛政十二年和冬上旬	1800	庚申 講中 藤五郎ら9名		
80	内房大風(医工殿)	万延元年十一月七日	1850	庚申 非語人 利兵衛ら9名		
81	内房大風(医工殿)	大正四年十一月廿八日	1914	庚申 数名の銘あり		
82	内房大風(医工殿)	昭和五十五年五月吉日	1980	庚申 大風堂		
83	内房神ノ上(高)	(破損により不明)	(不明)	(不明)		
84	内房神ノ下	宝永十年三月吉日	1761	辛丑 数名の銘あり		背面金剛
85	内房山田(観音堂)	享保十六年小春如意辰日	1731	辛酉 伝左衛門ら数名の銘あり		
86	内房山田(観音堂)	天明四年十二月吉日	1784	甲辰 伝左衛門ら6名		
87	内房野下(観音堂)	寛政八年仲冬日	1796	丙辰 講中 清右衛門ら10名		
88	内房野下(西)	安永二年□月初三日	1773	癸巳 野下右左衛門ら8名		
89	内房低島(二十三夜堂)	安永七年二月吉日	1778	戊辰 佐野源右衛門ら10名		背面金剛
90	内房低島(二十三夜堂)	寛政二年霜月	1790	庚戌 (不明)		
91	内房人峰日	享保九年初度一十号	1759	己卯 甚左衛門ら7名		

平成27年度第1回 歩く博物館探索会 平成27年5月23日(土)

富士宮市郷土資料館企画展「富士に息づく文学碑展」関連企画

富士宮の文学碑をめぐるコース



① 中尾の石造物

旧沼久保小学校入り口の県道沿いの身延線跡路下に、右迄の馬頭観音像・文殊菩薩像・月光菩薩像がある。文殊菩薩には建立年がないが、月光菩薩は寛政11年(1799)、馬頭観音は天保3年(1832)の建立年が刻まれている。

② 沼久保駅句碑

沼久保駅の所に「とある停車場富士の裾野で竹の秋」、「あま久保で降りる子連れの花の姫」と刻まれた高沼虚子(1874~1959)の句碑が立っている。昭和33年(1958)4月13日、84歳の虚子は下部温泉で罹された俳誌「裾子」百号記念俳句大会へ出席のため、富士駅から身延線で下部へ向かった。その途次披露された句がこの2句である。句碑は、昭和44年(1969)に富士宮俳句会によって建てられた。

虚子の句碑と並んで、富士宮郷土・平藁会によって昭和53年(1978)に建てられた富士宮の俳人堤井一注の句碑「沼久保の竹伐る頃を富士に雪」が立っている。

— 番外の見どころ —

◆ 馬頭観音

沼久保駅から羽新方面へ向かう古道を、50mほど行ったところで三光神社の登り口との分岐点となる。ここに明治5年(1872)建立の馬頭観音がある。

◆ 三光神社

登り口にある馬頭観音がつつら折りの坂道を三度曲がると到着するが、登り口からの比高差は100mほどあり、急峻な坂道を登ることになる。神社のある場所の直下は広場となっており、ここに立つ石碑には「三光天子境内 横十間 奥行二十四間 寄付人松井保平」とあり、松井氏が広場の土地を寄附したことが記されている。神社の創建は詳らかではないものの、言い伝えでは、安政の頃、材内に疫病が蔓延したとき、内房の長連山本成寺に日・月・星の三光天を祀ってもらったものだといふ。また、御神体(木製板碑)には「安政五年(1858)八月二十三日」と記されているという。この神社には大正6年(1917)3月18日奉納の、縦約40cm、横約180cmの木製碑類があり、地元周辺の俳人による55句の俳句が掲示されている。

◆ 東漸御前祠

沼久保駅から羽新方面へ向かう古道はかつての「みのぶみち」のひとつであった。現在は県道により寸断されているが、行止りとなっている付近に「養正御前」とも「養正の木」とも呼ばれている伝承地がある。「駿河志料」には「星山使文神社に近き地に、古へ織物せし物、又は養蚕せし者等の、翳ひ奉れる神祠にて、則諸郡神階帳に見えたる、織使文社の古社ならんが」とある。延喜式神名帳にその名を列ねた内社延文神社の古社である可記性を示唆しているが、現在は県道に添う急峻な崖上に小さな木製祠と三体の馬頭観音が静かに佇んでいる。

◆ 水沼の石造物

水沼の旧道沿いに馬頭観音2体と双体道祖神1体がある。馬頭観音は文化13年(1816)、大保10年(1839)、双体道祖神には寛政11年(1799)の建立年が刻まれている。

③ 疵神さん

疵神さんといわれる穴の開いた大きな石（溶岩樹型）がある。その石の穴に溜まった水が疵に替けて、家の敷居を跨ぐまで脈を返らずに傳ると伝わるといわれた。この石の穴には、どんな日照りの時でも緑色の水が溜まっていたというのだが、道路拡幅のとき道の反対側に動かして以来水が溜まらなくなってしまったそうである。

疵神さんの石の上には、「文化十二亥年（1815）十二月吉日 施主吉右衛門」と刻された観音さんの石碑が祀られている。

匠夷の巻連していた時代にあつては、疵が気になりお願いにくる人があつたのであろう。羽衣の蛙石・大牛里の蛙石など、蛙の取れるという石が方々で見られる。

④ 沼久保小学校校歌碑

沼久保小学校は、明治7年（1874）創立の仰信舎を前身とし、その後何回かの改称を経て、昭和22年（1947）に富士宮市立沼久保小学校として開校した。平成元年（1989）に百有余年の歴史を記し、現在、跡地には開校百年（昭和49年（1974））を記念して制定された校歌の碑が残されている。

⑤ 安沼用水水神碑

昔の沼久保道の東側、安沼用水路に面した高さ約5m・幅約7mの自然石に「水神」と大書してある。これは、安居山・沼久保西區民によつて設置された安沼用水の水神碑で、明治43年（1910）1月1日設立と刻されている。碑面には「新田水路除道工事引出」として次のようなことが記されている。（刻文漢字文より要約）

安居山・沼久保區は、畑地三百余町歩の山間の村落で、水利が悪く水田はごく一部であつたので、村民は水路を開き新田を開くべく奮起した。明治23年（1890）、大中玉の後藤柳平・望月直平、安居山の佐野伊平・塩川弥平、沼久保の松井藤十郎・松井保平の6人が熱心に運動し、埼玉県の岡村豊次郎に地質・水量の調査と測量などの助けを求め、除道工事を始めた。

用水は、柚野村新沢で芝川の水を堰上げて取水し、大堰を経て西山までは水路3,483間、その先は安居山麓道865間を通り、さらに安居山・沼久保西に新たに開削した用水路を通る。

發起人6人は所有地を担保として明治25年（1892）に工事に着手し、明治28年（1895）に工事を終えた。両区の地主は相談し、大宮町長土屋勝太郎、菅沼正作、美田登二郎らを立会人として安居山麓道通水路を小野金六に譲渡した。

今、両区の区民は水神碑を建てて発起人他関係者の丹精を後世に伝える。

⑥ 御見給の道祖神

正面に「道祖神」と彫られ、側面に「右つりはし 左大ミヤミチ」の刻銘がある道標を兼ねた文字道祖神である。ここが、江戸時代末の『袖日記』（横岡本家蔵）に、身延からの帰りに安居山東から大宮へ、台持街道を通つたと記されている台持街道入口の道標ではないかと考えられる。

⑦ 安居山太郎の墓

富士の巻簾のおり、別所の信定の墓を源頼朝が訪れたと伝えられる。この「信定」とは安居山太郎信定のことだとされ、ここが安居山太郎の墓所だといわれている。しかし、こ

の五輪塔は江戸時代の建立だと考えられ、戦国時代から江戸時代の年号が見られる。

⑧ 沼用水

安沼用水の主水路が流れている。安沼用水は安居山・沼久保の畑作地を潤し、今では用水治いに水田が広がっている。

⑨ 中別所の道祖神

ふつくらとした童顔の男女が合掌している双体道祖神である。「寛政三亥年 安居山上別所」と刻まれている。寛政3年（1791）建立。

⑩ 別所稻荷塚古墳

別所稻荷塚古墳は、六〜七世紀に造られた別所古墳群の一つで、基底径15〜17mと想定される円墳である。身延線の工事により一部開削されているが、良好な形で残されている。

別所稻荷塚古墳のすぐ北側の、石碑の立つている所が別所一号墳（別所古墳）類である。この古墳は、明治35年（1902）に発掘され頭椎太刀や鉄製銀象嵌の鐔・肩具・鉄鏃・装身具などの類例の少ない貴重な遺物が出土している。このことからすると、別所の古墳に葬られていたのは、ハブを支配するムフ長グループであらうと考えられる。

⑪ 東漸寺（渋谷六花待世古岡）

渋谷六花は、寛文11年（1671）、駿河国富士郡大宮町（現富士宮市）に生まれた。通称は渋谷平兵衛といい、大宮神田町に居住したというが、その出典には不明瞭な部分が多い。渋谷家は入宮の名家であり、安居山の東漸寺十一世日勝の代から天保期まで同寺の再興・修繕に尽くしている。

六花は松尾芭蕉の高弟である「蕉門十哲」の一人。服部徳雪（1653〜1707）に師事して俳句を学び、同郷の銀市・日笠等とともに服部選集に入賞している。俳号を「梅富軒」と稱した。後に沼津に居住し、同地を中心に俳門の師匠として活躍したとされ、寛延3年（1750）に79才で没した。東漸寺にある六花の墓には、辞世の句「夢の里を玄に出る死出の旅」が刻まれている。

富士宮市立郷土資料館 企画展

「富士に息づく文学碑」展

江戸時代、俳人・渋谷六花や中野梅市は中央の文化を郡土にもたらし、地域文化の向上に寄与しました。その後、当地では俳句・短歌といった文化活動が一層盛んになりました。今回の展示では、市内に数多く建立された句碑・歌碑を中心に、富士宮における文学の担い手たちを紹介します。

期 間：平成27年3月31日（土）〜7月12日（日）午前9時〜午後5時

＊毎月第3月曜日休館

見学科：無料

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2 市民文化会館1階）

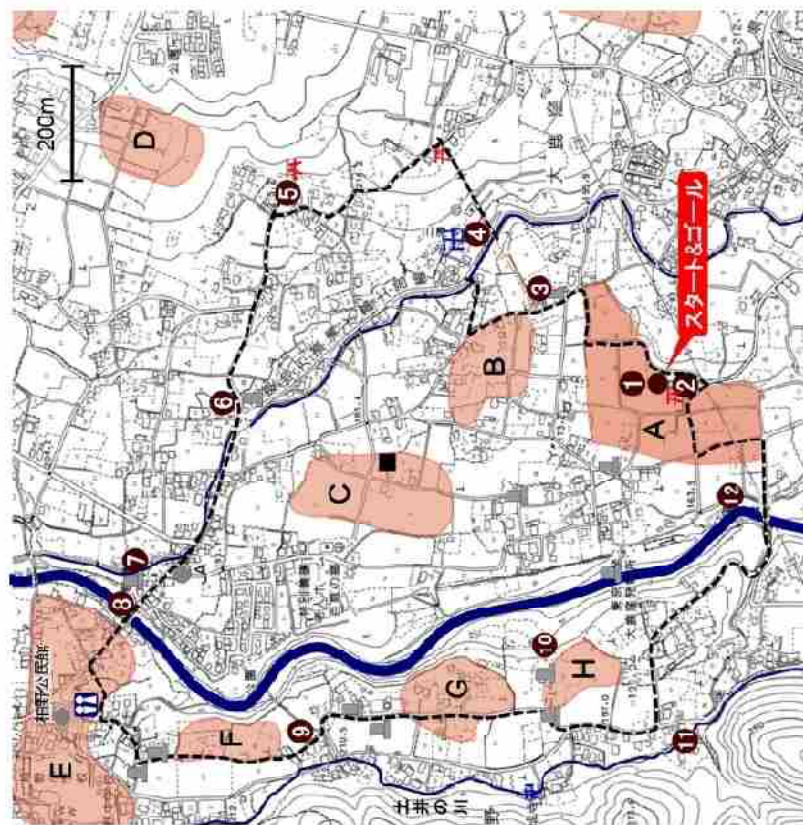
問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（堀越文化財センター）

電話）0544-65-5151 FAX）0544-65-2933

平成27年度第2回歩く博物館探索会 平成27年10月14日(水)
 (大鹿窪・下柚野) 距離5km

一大鹿窪遺跡と周辺の文化財を訪ねる一

①大鹿窪遺跡 → ②福石神社 → ③山の神(旧参道) → ④三澤寺・大堀(安居山用水) →
 ⑤熊野神社 → ⑥地神 → ⑦水神碑 → ⑧芝川のボットホール → ⑨磐石・兜石 → ⑩地
 神・照火権現 → ⑪ヒイラギ・土井の川(三区用水) → ⑫桑重所水路取入口



A-大鹿窪遺跡: 縄文(早・中・後) B-東村A遺跡: 縄文(中・後) C-東村B遺跡: 縄文(早・中・後)
 D-大林遺跡 E-熊野神社遺跡: 縄文(中・後・晩)、弥生(後)、古墳(前・後) F-外垣遺跡:
 縄文(早) G-中原遺跡: 縄文(中・後) H-東原遺跡: 縄文(中・後) ■-磐石・兜石

富士宮市教育委員会 文化課 (埋蔵文化財センター)

柚野は、芝川の流水・丘陵沿いの湧水・柚野山の沢水など、水の豊かなところで、大鹿窪遺跡をはじめとして、縄文時代の遺跡が多いところです。豊富な水を活かして農業・陸養が盛んで、柚野には、「一柚野・二天間・三穆清(ほくせい)」という、富士郡下で豊かな土地をあらわす言葉が残されています。※穆清は富士市比奈

①大鹿窪遺跡

国指定史跡(平成20年3月28日指定) 指定面積: 約6,600㎡(全域市有地)
 大鹿窪遺跡は、平成13年(2001)に、静岡県に1.5万坪の敷地を先立ち実施された遺跡の試掘・確認調査によって発見され、同年11月から翌年3月にかけて約3,800㎡の区域を対象に発掘調査が実施された。

その結果、約13,000年前の縄文時代草創期の遺跡であることが判明し、集落跡と見られる十数基の住居跡が発見された。集落跡としては最も古い段階のもので、住居跡の数もこの時期としては国内最多のものである。洞窟・岩陰の生活から開けた平地での定住生活が始まったことを示す遺跡として重要であるとして、国の史跡に指定されている。

②福石神社

「大鹿宮」「福石明神」とも称した。祭神は木花開耶姫命(コノハナリクヤヒメノミコト)、国常立尊(クニトコタチノミコト)、大日靈尊(オオニルメノミコト)。かつては浅間大社の摂社(継新後は末社)で、浅間大社の神職「甘藷太夫」が福石神社の禰宜を兼ねていた。浅間大社の流籠馬に、大鹿村で製した甘藷を献上した。浅間大社とゆかりの深い神社である。元城町の福石神社(祭神は大己貴命 猿田彦命 磐長姫命)境内にも、社号の由来となっている磐石の大岩があるが、ここにも境内裏手に磐石の跡頭がある。境内社として八坂神社と天神社が祀られている。

③山の神

大鹿窪東村の「山の神」。山の神は春に山から里に下り秋に山に帰る「山の神」(農業の神)で、祭神は大山祇(おおやがずみ)神を祀ることが多い。1月17日が山の神の祭りで、竹で作った弓矢を奉納する。

灯籠に、「御宮並石燈籠 対建立」「寛政二庚戌年二月社日」「願主日勇」とある。ここは三澤寺の旧参道入り口に当たるところで、「願主日勇」は三澤寺第22世である。

※寛政2年は西暦1790年

④三澤寺

日蓮宗(総本山は身延山久遠寺)寺院。開創は鎌倉時代の正安2年(1300)と徳治3年(1308)の両説がある。開山は、六老僧(日蓮聖人の六大弟子)の一人、阿闍梨日朗上人。開基は、三澤殿(三澤小次郎昌弘 三澤院日弘上人)である。

三澤昌弘は、鎌倉幕府初代将軍源頼朝の御家人で、『吾妻鏡』にも名前が見られる当地の地頭職だった三澤小次郎の孫にあたる。身延山の日蓮聖人に柑子・昆布・海苔等の供養物に添えて法門のことを尋ねた。それに対して日蓮聖人が身延から三沢氏に送られた書状「三澤抄」(みさわしやう)がある。三澤昌弘は三澤院法昌日弘と号し、福を三澤寺としたと伝えられている。現在の三澤寺は、明暦3年(1657)5月8日に、10世日朗の代

に三沢坊ヶ谷戸にあった寺を現在の地に移したものと伝えられている。

【大堰（安居山用水）】

大堰（安居山用水）は、芝川の燕塚から取水し、富士宮市南部の大鹿堰、西山、安居山、沼久保の各地区の水田を灌漑する総延長約12kmの農業用水路である。

その起源は不詳であるが、文化13年(1816)に建立された報恩塔には、武田氏の家臣であった篠原尾張守(蓮甫入道)が芝川から引水したのが始まりとある。三澤寺境内には、「いまい沢堰大願成就所 元禄八年九月十九日 施主郷中」と刻まれた石臼が残されており、この頃(西暦1695年)には大堰の原型が開削されていたものと思われる。

天保年間(1830～44)には、篠沢川の流末を引水した新堀(新右衛門堀)の開削や、燕塚を改修して水量を増し、本門寺境内から西山村を灌漑する用水路が延長・開削された。さらに、嘉永3年(1850)から安政5年(1858)にかけて、延長した羽野用水が開削された。

現在の安居山用水は、明治25年(1892)安居山・沼久保・大中里地区の有志が起し、明治28年(1895)全長約1,550mの隧道が貫通して、安居山・沼久保まで通水された。

(※歩く博物館Oコース「安沼用水の里を歩くコース」参照)

⑤熊野神社

祭神は熊野神。創建不詳。棟札に「熊野大権現宮 千時宝永丁亥年三月大吉祥日奉遷之普也」とあるという。熊野坐神社(くまのにますじんじや)の分量を、深沢某氏が勧請したものと伝えられている。神社奥側には湧水があり、飲料水や農業用水として利用されてきた。集落名の語源ともなっている。安政年間に流行した疫病で周辺の集落で大勢の死者がでたが、この神社の信者に限り患者すらでなかったという伝承がある。この湧水を飲用していたためとも考えられる。 ※宝永丁亥年(4年)は西暦1707年

熊野神社は、市内には白糸滝の上流に一社と、青木の黒井川と風祭川が合流する地点に一社ある。共に河川に面する所に祀られており、水との関連が推定される。

⑥地神

「地神信歌石」とある。裏面には「文化二乙丑年二月古岸穀旦 弘法山三澤寺日英」とある。日英は三澤寺21世である。 ※文化2年は西暦1805年

旧芝川町域には、地神を地域で祀っている所が多く、年に二回、春分・秋分に最も近い戌(つちのえ)の日に「じのかみさん」を祀り、豊作を祈り、収穫を感謝する。

⑦水神碑

正面に「奉勧請水神鎮座修」とある。建てられたのは「文化十三丙子年 六月古岸日(左面)」である。建てたのは「大鹿村 役人中 世話人(右面)」である。

右面に造立の経緯が記されている。

「大鹿村用水堀之内、今井ヶ沢堤並び久保分水両所数度破損有之憂、文化八年己未同十二戊辰五ヶ年の間、町内依丹誠為永代新石垣令作、且又一〇造立面鎮守奉信敬者也 勧請主 三澤寺日英敬白」

今井ヶ沢堤と久保分水の二カ所がたびたび破損するので、新たに石垣を積み直し、水

神を勧請し用水を守るために祀ったという。 ※文化13年は西暦1816年
日英は、同年(文化13年)の篠原家「報恩塔」造立に関わっている。

⑧芝川のポットホール（静岡県指定天然記念物 平成7年3月20日指定）

ポットホールとは、河床の岩壁にできる円筒形の穴で、「陥穴」という。岩のくぼみや割れ目に小石が入り込み、水流によって回転して深く削られたもの。芝川流域の溶岩流中によく見られる。

⑨権石（かろうといし）・兎石（かぶといし）

源頼朝が富士の巻袴をしたときに、この付近まで来て、道ばたの平らな石の上に「しろいびつ」を置き、村所に「兎（かぶと）」を置いたという伝説がある。その石を権石（かろうといし）と兎石（かぶといし）と呼んでいる。富士宮市域には、富士の巻袴に關連する伝承地が各所にある。

⑩地神・黒火権現・地藏等（調査中）

向かって右側の石祠には、「(左面)地主与五郎・安兵衛、地神安口、世末三小木成口・口口、(右面)安永二年癸巳年 奉造口口 施主氏子中 (裏面)九月十一日立」とある。下柚野区で祀っている地神である。 ※安永2年は西暦1773年

向かって左側の石祠には、「(左面)安永十辛丑年 (右面)施主安兵衛」とある。

※安永10年は西暦1781年

中央には「黒火権現 四月十七日」と聞き慣れない神名が刻まれた石碑がある。石碑の上段には日輪（太陽）が刻まれている。日神を祀ったものか。

また、右側の壁龕には、「文政六癸未年 村中之子共五十人はふさふさ ぶなんご志ぬき 候三付 志んしんを以 御礼として石とふろう こんりやう 蓬上申候 下砂の村 月日氏了」とある。これと同じ銘が、諏訪八坂山神社境内にある竜宮神の意籠に刻まれている。当時の人々が抱腹を恐れていたことがよく分かる。 ※文政6年は西暦1823年

⑪ヒイラギ（市保存樹第37号）・土井の川（三区用水）

推定樹齢約300年という古木で、目通りは1.85mある。ヒイラギはトゲがあることから古くから害虫の侵入を防ぐと信じられ、庭木に使われてきた。節分の夜、焼いたイワシの頭をヒイラギに刺して、家の入り口などに挿して魔除けにした。やいかし。

手前を流れている用水路は通称「土井の川・十井堀」と呼ばれる用水路で、上柚野・下柚野・鳥並の三区を灌漑している「三区用水」である。上柚野の芝川から（中橋上流）から取水し、芝川より西側一帯を灌漑している。

⑫西山発電所水路取り入れ口

現在、芝川の急流(芝川は水源から富士川合流点まで約22.5km、その間の落差約700m)を利用して芝川水系では2箇所が発電所が建設され現在にいたっている。西山発電所は、明治43年(1910)操業の猪之頭発電所に次いで、青木発電所と共に明治44年(1911)の操業である。

資料vii 各委員会等委員名簿

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 平成 27 年 9 月 1 日から平成 29 年 8 月 31 日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第 45 条第 2 項

富士宮市立郷土資料館条例第 6 条第 3 項

	氏 名	分 野
会 長	植松 章八	考古・史跡
副会長	北垣 俊明	天然記念物（地質・鉱物）
委 員	芦澤 幹雄	地域史
委 員	小川 只道	重要文化財管理（大石寺）
委 員	川名 義博	重要文化財管理（北山本門寺）
委 員	鈴木 雅史	重要文化財管理（富士山本宮浅間大社）
委 員	高橋 晶子	工芸品（彫刻）
委 員	建部 恭宣	建造物
委 員	松田 香代子	民俗・無形民俗文化財
委 員	山口 裕嗣	重要文化財管理（西山本門寺）
委 員	渡井 正二	民俗・古文書
委 員	渡邊 定元	天然記念物（植物）

(2) 史跡富士山整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授・元学長	考古学
副委員長	田中 哲雄	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
委 員	建部 恭宣	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	建築学
委 員	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院長	考古学
委 員	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所客員研究員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学

(3) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委 員	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委 員	池邊 このみ	千葉大学園芸学部教授	景観論 環境計画
委 員	佐野 貴司	国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ長	地質学 岩石・鉱物・鉱床学
委 員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学
委 員	渡邊 定元	元東京大学教授 φ 森林環境研究所長	生態 環境

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	向坂 鋼二	前静岡県考古学会会長	考古学
委 員	遠藤 克実	大鹿窪区区長	地域代表
委 員	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学
委 員	小林 謙一	中央大学文学部教授	考古学
委 員	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	考古学

※平成 28 年 3 月 31 日現在（委員・役職名等）

※委員は五十音順

資料Ⅷ 富士宮市内指定文化財等一覧

富士宮市内指定文化財等一覧 〈平成 28 年 3 月 31 日現在〉

国指定文化財（21 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	明 40. 5. 27
〃 ・ 〃	大石寺五重塔	上条 2057	大石寺	昭 41. 6. 11
〃 ・ 絵 画	絹本着色富士曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 6. 11
〃 ・ 工芸品	太刀（銘南无薬師瑠璃光如来/備前国長船住景光）	〃	〃	明 45. 2. 8
〃 ・ 〃	脇差（銘奉富士本宮源式部丞信国/一期一腰応永廿四年二月日）	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	太刀（銘吉用）	上条 2057	大石寺	大 12. 3. 28
〃 ・ 書跡典籍	法華経（常子内親王筆）	西山 671	西山本門寺	昭 24. 2. 18
〃 ・ 〃	紺紙金字法華経（開結共）	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	貞観政要巻第一（日蓮筆）	北山 4965	北山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	細字金字法華経（藍紙）	〃	〃	昭 29. 3. 20
〃 ・ 古文書	法華證明鈔（日蓮筆）	西山 671	西山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	上条 2057	大石寺	昭 42. 6. 15
〃 ・ 〃	日蓮遷化記録（日興筆）	西山 671	西山本門寺	平 5. 1. 20
特別名勝	富士山	二合目以上他	（富士宮市他）	昭 27. 11. 22
特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿 98-1	井出信子（富士宮市）	昭 27. 3. 29
〃	湧玉池	宮町 1-1 他	富士山本宮浅間大社他	〃
史 跡	千居遺跡	上条 1818 他	大石寺	昭 50. 6. 26
〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪 426-1 他	富士宮市	平 20. 3. 28
〃	富士山	八合目以上他	（富士宮市他）	平 23. 2. 7
名勝・天然記念物	白糸ノ滝	原・上井出	（富士宮市）	昭 11. 9. 3
天然記念物	万野風穴	山宮	（富士宮市）	大 11. 3. 8

県指定文化財（23 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	西山本門寺本堂厨子	西山 671	西山本門寺	昭 29. 1. 30
〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	〃
〃	大石寺御影堂	上条 2057	大石寺	昭 41. 3. 22
〃	大石寺三門	〃	〃	〃
絵 画	富士浅間曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 56. 10. 23
工芸品	脇差（銘出羽大掾藤原国路）	大中里 396-2	渡辺英男	昭 37. 6. 15
〃	青磁蓮弁文大壺	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 3. 18
〃	青磁浮牡丹文香炉	〃	〃	〃
〃	人形手青磁大茶碗	〃	〃	〃
〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	〃	〃	〃
書跡典籍	万暦本一切経	上条 2057	大石寺	昭 52. 3. 18
〃	重須本曾我物語	北山 4965	北山本門寺	昭 53. 10. 20
無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	平 7. 3. 20
天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山 1151	村山浅間神社	昭 31. 5. 24
〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	北山本門寺のスギ	北山 4965	北山本門寺	昭 32. 5. 13
〃	大晦日五輪のカヤ	内房 5681	望月旭	昭 40. 3. 19
〃	村山浅間神社のイチョウ	村山 1151	村山浅間神社	昭 43. 7. 2
〃	上条のサクラ	上条 923	佐野一男	〃
〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒 1539-2	野村藤男	昭 59. 3. 23

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
天然記念物	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭 688	高野幸孝	昭 60. 11. 29
〃	大晦日のタブノキ	内房 5681	望月旭	昭 62. 3. 20
〃	芝川のボットホール	下柚野 319 地先	（富士宮市）	平 7. 3. 20

市指定文化財（35 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	平等寺の三門	東町 4-24	平等寺	昭 60. 3. 11
〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿 91-1	富士宮市	平 7. 3. 16
〃	妙蓮寺 5 棟	下条 688	妙蓮寺	平 23. 5. 24
〃	上稲子八幡宮の厨子	上稲子 1630	八幡宮	平 25. 6. 20
〃	龍興寺の厨子	内房 3716	龍興寺	〃
〃	芭蕉天神宮本殿	内房 5820	芭蕉天神宮	〃
絵 画	天象の図	村山 1151	村山浅間神社	昭 55. 1. 11
〃	太郎坊権現の図	〃	〃	〃
〃	阿字曼陀羅	〃	〃	〃
〃	伝末代人画像	〃	〃	〃
彫 刻	大日如来坐像（胎藏界）	村山 1151	村山浅間神社	昭 57. 8. 23
〃	大日如来坐像（金剛界）	〃	〃	〃
〃	大日如来坐像（胎藏界）	〃	〃	〃
〃	役行者倚像	〃	〃	〃
〃	不動尊像	〃	〃	〃
〃	隨身像	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	平 5. 5. 25
工芸品	伝源義助作大薙刀	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	弥陀観音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野 197-1	延命寺	平 24. 5. 24
書跡典籍	後陽成天皇宸翰	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	外国語（英・蘭）辞書類一括	中央町 11-2	中西信子	昭 63. 4. 15
古文書	袖日記	大宮町 7-16	横関及彦	昭 60. 3. 11
考古資料	三連甕形土器	黒田 1373-13	若林和司	昭 55. 1. 11
〃	安養寺の土偶	杉田 489	安養寺	昭 57. 8. 23
〃	駿州富士郡二股村石経塚	栗倉 1051-1	小林充	昭 63. 4. 15
無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平 11. 1. 26
〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	宮町	富士山本宮浅間大社流鏑馬保存会	平 18. 9. 8
史 跡	大室古墳	小泉 1467-1	（上小泉八幡宮）	昭 60. 3. 11
〃	中野梅市建立の句碑	黒田 36	本光寺	〃
〃	虚空蔵社古墳	西小泉町 59-4. 5	鈴木英光	平 5. 5. 25
天然記念物	大宮縄状溶岩	元城町 32	富士宮市	昭 44. 4. 1
〃	フジキクザクラ	上条 2057	大石寺	昭 57. 8. 23
〃	中央町のカヤ（カヤの木）	中央町 11-2	中西信子	〃
〃	猫沢のカシワ	猫沢 98-2	篠原幸夫	平 26. 4. 30
〃	西山本門寺のシダレマキ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	寛妙寺のイヌマキ	内房 2642	（橋上町内会）	〃

国登録有形文化財（1 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	登録年月日
建造物	吉澤家住宅煉瓦蔵	宮町 947-1	吉澤利一	平 27. 3. 26

富士宮市文化財年報 第6号

平成29年3月24日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 株式会社きうちいんさつ

